

京都府立医科大学附属病院臨床検査部

松本和道、稲葉 亨、井上弘史、木村哲也、小森敏明、藤田直久

同 消化器内科：山口寛二、伊藤義人

【緒言】HCV 抗体は手術前や入院時のスクリーニング検査として繁用されるが、抗体陽性患者が必ずしも適切な対応を受けていないことが問題視されている。我々は HCV 抗体陽性患者の担当医に HCV RNA 検査の追加実施と肝臓専門医への紹介を促すメッセージの送信を 2015 年度から開始したので、その有用性について検討した。

【方法】メッセージ送信開始前後（2013～2017 年度）での HCV 抗体陽性患者について、感染状況、HCV RNA 検査実施率や陽性率等を検査システムや電子カルテを利用して比較した。

【結果】1) HCV 抗体陽性患者数は 2013 年度：11,522 例中 477 例（4.1%）、2014 年度：11,531 例中 460 例（4.0%）、2015 年度：12,108 例中 447 例（3.7%）、2016 年度：12,346 例中 376 例（3.0%）、2017 年度 12,225 例中 360 例（2.9%）であった。2) HCV RNA 検査が追加されたのは各々 123 例（25.8%）、140 例（30.4%）、192 例（43.0%）、125 例（33.2%）、122 例（33.9%）であり、このうちメッセージ送信後に追加実施された患者数は 2015 年度：148 例中 75 例（50.7%）、2016 年度：95 例中

52 例（54.7%）、2017 年度：106 例中 67 例（63.2%）であり、診療科毎の集計では著明な差違（7.1%～80.0%）を認めた。3) HCV RNA 陽性患者数は 2013 年度：72 例（58.5%）、2014 年度：82 例（58.6%）、2015 年度 102 例（53.1%）、2016 年度 43 例（34.4%）、2017 年度 39 例（32.0%）であり、このうち 2015 年度 25 例、2016 年度 14 例、2017 年度 16 例が、メッセージに従って肝臓専門医へ紹介された。

【考察】我々のアラートメッセージシステムは未治療の C 型肝炎患者の拾い上げにある程度有用と考えられたが、一部の診療科では十分に機能していなかった。従って、1) 社会的公益性が高いと考えられる若年患者（≤65 才）の担当医には HCV RNA 検査の勧奨メッセージを複数回送信すること、2) 一部の診療科では担当医のみならず担当看護師の協力を得ること等により、本院を受診した HCV キャリアーが適切な治療の機会を逸することがないように、アラートメッセージシステムの見直しが必要と考えられた。